

事例③ 4つの視点『わくわく』5歳児クラス・4月
期のねらい「進級したことを喜び、友だちとの関わりを楽しみながら意欲的に生活する。」
「どんないろになるかなー色水遊びから広がる豊かな経験を支える保育ー」

園のくらし、子どもの姿

一人ひとりの子どもを大切にしたい保育を行い、人との関わりの中で社会性や信頼感を育てることを園の方針としています。自分で考え行動できる思考力や創造性など豊かな感性を育てることも大切にしています。

子どもたちは、年長クラスになったことを喜び、当番活動を積極的にに行ったり年下の子を気にかけて手伝いをしたり自信をもって生活しています。また、製作やカプラと積み木を組み合わせた遊びをして、友だちとアイデアを出しながらイメージを共有して楽しむ姿が見られます。

あそびのはじまり

気温が高くなり、園庭に出ると水を使って遊ぶ姿が見られるようになりました。園庭の草花を使って色水を作ろうとしますが、色がやすい花がまだ咲いておらず、なかなかうまくできないという姿がありました。そこで、色水を作りたいという子どもの願いを叶えるため、職員間で話し合い、絵の具を用いた3原色（赤・青・黄）の色水を用意しました。色水に出会った子どもたちは、すぐに興味を示し、好きな色をどんどん容器に注ぎ混ぜていました。3色をすべて混ぜたため、黒っぽい色になり、がっかりした様子が見られました。

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■3つの色 混ぜるとどうなる？

これもこれも
まぜちゃおう



きたない色に
なっちゃった…

■イメージ通りの色を作りたい！仲間と試行錯誤

ちょっとずつ
まぜてみよう



今日は
黒くならな
かったね

■「これはオレンジ味です！」ジュース屋さん開店



みてーいっぱいできたよ

ミントは
いいかおりが
するね

《保育者の 〇願い・思い 〇配慮事項》

〇3つの色を混ぜるおもしろさや不思議さを感じながら、色水遊びのイメージを広げてほしい。

〇一人ひとりがじっくりと楽しめるよう、色水遊びができるスペースをつくり、泡だて器や透明カップなどの道具を十分な数を用意する。

〇色ごとの量や混ぜ方など、自分で気付いたり、自由に表現したりする姿を受け止め見守る。

〇仲間と試行錯誤しながら、色の混ぜ方を工夫したり、新しい色を作ったりするおもしろさを味わってほしい。

〇園庭に出る時には必ず3色の色水を用意するなど、遊びを継続して繰り返し楽しめるようにする。

〇「これは何色を混ぜたの？」「きれいな色だね」など、子どもたちの思いに共感的、応答的に関わりながら、仲間との関わりにつなげる。

〇仲間とアイデアを出し合って、さらにイメージを膨らませながら、色水を使った遊びを広げてほしい。

〇本物のジュース屋さんのイメージが広がるように、様々な大きさの透明カップやペットボトルを用意する。

〇園庭の植物に興味をわくよう声をかけ、新たな遊びに発展できるよう子どもたちと共に考える。

学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 色水に心が動かされ、繰り返し関わることでイメージを広げる（10 豊かな感性と表現）

子どもたち一人ひとりが色水を楽しめるよう、様々な大きさの透明カップを十分な数用意しています。そして、子どものつぶやきに耳を傾け、思いに共感しています。こうした保育者の細やかな配慮に支えられて、子どもたちは色水の面白さを存分に味わっています。色水の美しさ、色を混ぜる面白さに心を動かされ、仲間とイメージを広げながら、様々な道具や素材を組み合わせて、感性豊かに表現する姿につながっています。

② “きれいな色をつくりたい” 思いを出発点にして、試行錯誤する（6 思考力の芽生え）

たくさん色を混ぜて真っ黒になってしまった経験から、色の混ぜ具合を工夫するようになった子どもたち。「きれいな色をつくるには、どうしたらいいだろう」子どもたちの中に、そんな思いが膨らんで、色を混ぜる実験につながっていきました。目盛り付カップや、カラーチャートなど、子どもたちの興味を広げる教材・教具をその都度用意したことで、子どもたちの実験がさらに豊かなものになっています。

《教材等の工夫》

ビニールプールを活用し室内でも色水遊び

■室内でも色水あそびができるように…

- ・暑さのため戸外で遊ぶことが難しくなり、室内でも色水遊びを楽しむことができるよう、ビニールプールを用意した。
- ・色水遊びが好きだった子どもたちは、室内でもできることを喜び、すぐに遊び始めた。



■目盛り付きのカップを用意すると…

- ・遊びながら数量に気付き、興味や関心がもてるよう、目盛り付きのカップを用意した。
- ・初めは目盛りに気にせず、普通のカップと同じに使っていたが保育士が目盛りに目に向くよう声をかけると、
*1まで黄色を入れて次に3まで青を入れる*など、目盛りを使って色水を注ぐ子も見られるようになった。

目盛りを見ながら
慎重に注ぐ姿



■カラーチャートで色の違いを見比べてみる

- ・自分たちがつくった色と見比べたり、作りたい色を知ることができたりするように、カラーチャートを用意した。
- ・カラーチャートを見せながら、「どの色になったかな？」と問いかけると、自分の作った色と見比べ、次はこの色を作りたいと意欲を高める子もいた。

カラーチャートと
自分の色を比べている



保育者の気付き、その後の子どもの育ち

色水遊びの経験から、うまくいかない場面に出合った時に、「こうしてみたらどうかな」と自分で考えたり、友だちとアイデアを伝え合ったりする姿がみられるようになりました。数や色の面白さへの気付きは、この後も様々な遊びの中で生かされ、深まっていきました。

小学校教育との円滑な接続

幼児期の遊びの中で自分の感覚や行為を手掛かりに、色や形などに気付き、自分のイメージを広げていきます。図画工作科の造形遊びをする活動では、自分にとって意味や価値をつくりだし、友だちと共有することを通して、さらに見方・考え方を広げていきます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

6 思考力の芽生え

10 豊かな感性と表現

小学校教育活動との関連

図画工作科 造形遊びをする活動
算数科 「水のかさ」等